

それでは、届出順に発言を許します。6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 皆様、おはようございます。明政クラブ、伊原と申します。

初めに、教育長さん、先月30日、地域の小学校の児童、教員の皆様、それから老人クラブ会員70名程度で、グラウンドゴルフを楽しみました。

主催は、社会福祉協議会でしたが、極めて楽しいひとときを過ごさせていただきました。

次回も開催できるように校長先生に御進言よろしく願いいたします。

以上です。

本日は、対馬市長期人口ビジョンの展望をテーマに、本市の人口減少の背景と持続可能な地域社会継続への取組について、次に、「よりあい処つしま」10周年目の運営状況としまして、福岡国際センターで開催されました大相撲九州場所開催における「よりあい処つしま」の事業実態の2点についてお尋ねをいたします。

さて、先月、関西を拠点とするプロ野球セリーグ・パリーグの優勝2チームの祝賀パレードが同日に行われ、延べ100万人の方々から祝福されたことが報じられていました。あの光景を目の当たりにしたとき、都会の勢いを感じました。また、東京では、330メートル級のタワーが建設され、最上階の賃借料は200億円の予定で、既に需要が見込まれているそうです。

このように、東京は、政治、経済、文化など様々な機能が集積し、我が国の社会経済の発展と、イギリス、ロンドン、ニューヨークを抜いて、世界一の都市を目指して取組が進んでいます。

一方、政令指定都市を除いた地方の人口は年々減少しています。その最大の要因は、国内の昨年度の出生数は77万800人弱で、対前年度と比較ではマイナス4万900人で、7年連続で減少しています。

さて、本市では、1988年から2023年までの35年間で、小学校23校、中学校15校が統廃合により閉校となっています。いかに、議会、教育行政を含めた子育て世帯支援策の継続が重要か、こども未来課を軸として、これから人口減少時代にふさわしい政策転換が求められているのではないのでしょうか。

このような中、本市の人口減少対策を含め、対馬市長期人口ビジョン、また、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、持続可能な地域社会の継続に向けた「なりわいづくり分野」、2点目としまして、「交流・移住・定住分野」、3点目は「結婚・出産・子育て環境分野」、4点目は「高齢者のいきがづくり、住みやすいまちづくり分野」における4つの重点戦略が掲げられていますので、その具体的な現下の取組についてお尋ねをいたします。

2点目は、先月12日より福岡国際センターを会場に、大相撲九州場所が開催されました。九州場所の会場前に、本市のアンテナショップとして移転した「よりあい処つしま」の事業実態についてお尋ねいたします。

以上、2点について御回答よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。伊原議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬市長期人口ビジョンの展望についてでございますが、議員御承知のとおり、本市の人口については、昭和35年をピークに減少しており、令和2年の国勢調査による人口は2万8,502人となっており、急速な人口減少、少子高齢化という大きな課題に直面している状況であります。

このような中、令和2年1月に対馬市長期人口ビジョンを策定し、人口ビジョンで示す目指すべき将来の方向性を踏まえ、第2次対馬市総合計画に掲げる4つの挑戦からなる「自立と循環の宝の島 つしま」と連動した本市ならではの、「なりわいづくり分野」「交流・移住・定住分野」「結婚・出産・子育て環境分野」「高齢者のいきがづくり・住みやすいまちづくり分野」の4つの重点戦略及び必要な施策・事業の基本的な考え方を示す第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、現在、その取組を推進しているところであります。

具体的な取組についてをお尋ねでございますので紹介いたしますと、まず、なりわいづくり分野につきましては、重点戦略1、対馬ならではの雇用・なりわいを創出するとして、新規創業や事業拡大を行う個人及び事業者に対する設備導入や人件費等の助成、創業や新商品の開発等を考えている方向へのセミナーの開催やアドバイザーの派遣に取り組んでおります。

なお、支援事業者に対しては、事業継続のためのフォローアップも行っております。

また、企業誘致においては、今議会に条例改正の議案を上程しており、奨励措置の拡充、要件緩和により、さらに企業誘致を促進していくこととしており、そのほかにも農林水産業従事者等の所得向上及びU I ターン者の生活の安定のため第1次産業に加えて副業を行う方を対象に、初期投資に対し、一定の支援を行うための制度の構築に向けて取り組んでいるところでございます。

次に、交流・移住・定住分野については、重点戦略2、島の魅力・独自性を生かした交流・移住・定住を拡大するとして、都市部の小・中学生を受け入れ、対馬の風土・環境を通して心身ともに健康な児童・生徒の育成を図る島っこ留学推進事業、持続可能なしまづくりを担う人材の育成を目的とする、島づくり人材育成事業等を実施し、関係人口・移住者等の増加を目指しております。

また、移住希望者への情報発信、空き家バンク制度、お試し住宅、定住支援住宅の整備、移住相談会への参加などにも取り組んでおり、移住者に対して、ふるさと就職奨励補助金、結婚移住奨励補助金、しま暮らし支援補助金、奨学金返還支援補助金などの支援により、3年間で395人の方が対馬市に移住してきております。

さらに、市が契約した陸上の指導者の高校への派遣や高校部活動の強化のため、島外への遠

征・合宿等に要する経費を助成することで、高校の魅力化、保護者負担の軽減を図り、島内高校への進学率の向上を図っております。

次に、結婚・出産・子育て環境分野については、重点戦略3、安心して結婚・出産・子育てが出来る環境を創出するとして、市内男女の未婚・晩婚化対策のため、出会いの場創出から交際・結婚までのフォローアップを実施する縁結びプロジェクト事業を実施しております。

また、働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業を市が認定し、支援する認定制度や、経営者が働きやすい職場づくりに取り組むことを宣言してもらい、支援することで、出産・子育てがしやすい環境を民間企業にも働きかけていく予定であります。

次に、高齢者のいきがいづくり・住みやすいまちづくり分野については、重点戦略4、高齢者が健康で生きがいを感じられる環境を創るとして、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して、できる範囲で手助けをする認知症サポーターの養成事業や、高齢者が技術を生かして収入につなげるためのシルバー人材センターの運営補助を行っており、さらにコミュニティバスによる交通・買物支援等の生活支援にも取り組んでおります。

また、医療と介護がスムーズに連携するよう、相談や情報提供を行い、それぞれの機関が役割を果たすことで、適切な治療・介護・サポートが受けられるよう、在宅医療・介護連携推進事業を実施しております。

人口減少抑制対策に効く特効薬はないということではありますが、対馬市総合戦略推進会議をはじめとした様々な御意見、お力添えをいただきながら、さらに取組を進め、子どもから高齢者までが住み続けられる持続可能な島を目指すために、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略一つ一つの事業を着実に進めていくことが人口減少の抑制につながるものというふうに考えているところでございます。

次に、2点目の「よりあい処つしま」の10年目の運営状況についてでございますが、「よりあい処つしま」は、福岡市において対馬の観光や物産の情報を発信する拠点として、平成25年11月22日に博多駅前に開設し、令和2年4月に現在の博多区築港本町に移転いたしました。10年間で22万人を超える方に来店いただいております、情報発信の拠点として、また、対馬出身者や対馬に興味がある方の寄り合いの場として、アンテナショップの機能を発揮しております。

伊原議員が御質問の九州場所開催期間中と10月における「よりあい処つしま」の営業実態について、飲食と物産販売の合計で申し上げます。

来店者数は、10月が2,420人で1日平均106人に対し、九州場所開催中の15日間は1,539人で1日平均131人です。1日当たりの売上げは、10月が約26万5,000円で、九州場所開催期間中は約29万1,000円、客単価は10月が1,968円に対し、九州場所期間中は2,097円となっております。

九州場所は2週間にわたって開催されますので、PRの絶好の機会と捉えております。

また、「よりあい処つしま」の周辺には大型のコンベンション施設が4つあり、今月末は福岡モビリティショー、1月にはMISIAのライブなど、展示会、コンサート、学会がめじろ押しであり、全国各地から多くの人が集まります。

今後も対馬観光物産協会と連携しながら、「よりあい処つしま」を拠点に、対馬の情報発信に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。

それでは、1点目の対馬市長期人口ビジョンの展望の中で、4つの重点項目がございました。

なりわいづくり分野につきましては、対馬ならではのいろんな事業展開をなされとると、新規の創業の助成だとか、それから企業誘致の関係だとか、この企業誘致もそうでしょうけど、ある程度、継続的な事業展開ができるように本来すべきだと思います。

ここ5年間でもよろしゅうございますけれども、先ほど新規事業のほうは何件程度ございましたでしょう。この5年間で結構です。トータルでも結構です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、令和2年から令和4年の3年間で集計をしておりますけども、こちらでよろしいでしょうか。いいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

まず、雇用機会拡充支援事業関係、創業等支援事業関係では、令和4年が新規創業1件、新規雇用者32名でありまして、これが令和2年から令和4年の3年間になりますと、新規創業が6件、新規雇用者が84人でございます。

それから企業誘致の奨励事業でございますけども、令和4年は、訪問企業3社だけでございました。2年から4年までの3年間では5社程度訪問をしているということでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） なりわいづくりににつきましては、ある程度、新規の事業があつて、雇用もそれなりに今あるということで、若干ですけど、安心をいたしました。

他の自治体との比較はちょっといたしませんけれども、特に昨日も話が少し出ていました五島地区ですよね。勢いが少し若干、当地区と比べて、勢いがちょっと違うなという気がいたしております。それはそれで選ぶ側の問題で、問題というか、いろいろありましようけれども、本市にとって、これだけの人口が減少している中で、何を特化して、増加に向けた取組が必要かなというふうに考えられますけれど、人口減少につきましては、本市のみならず、国内的にも非常に厳しいと。先ほど子どもの数の減少を話をしましたけれども、これはやっぱり実態ですね。本市で

も人口減少かれこれ話が出ますけど、それはまたちょっと後で話をしますけれども、大変な状況と言えるのは間違いございません。

それで、第2期の総合戦略も策定されまして、昨日、担当の方からその概要が報告をされました。

目標に向けて評価指標が策定されていますが、要は人口減少をどう食い止めることができるか、大変重要な課題と言えます。市長さんも頭の痛いところでしょう。特に子育て環境分野は、これ後で言いますけれども、そのあたりも含めて、このなりわいづくりにつきましても、大体それなりに事業展開ができるような体制づくりがなされているということでございましたので、もうそれについては、今後またしっかりした取組をしていただければと思っております。

それから2番目の交流・移住・定住分野も、これにつきましても、対馬ならではの独自性、それから都市部からの児童受入れ、住宅の提供など、それなりに対応なされておりますけれども、今、都市部からの児童の受入れはゼロじゃないかと思えます。そのあたりはどうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにですね、令和4年度におきましては、現在、この島っこ留学在籍者数は1名という報告を受けております。これまで令和2年から4年の3年間の累計では16人になっておりましたけれども、里親等の関係もございまして、今は1名ということで、これではいけないというようなことで、今後、孫戻りの留学も含めることがまず1点。

そして、これまでは、小規模の学校のみを対象としておりましたけれども、これを全島に広げて、島っこ留学を拡大していこうということで、取り組むように計画しているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） いろいろ大変とは思いますが、しっかりとした取組をしていただければなと思っております。

それから、昨日の報道でございましたけれども、子育て環境分野の中で、国は異次元の少子化対策として、3人以上の子どもがいる多子世帯の大学授業料無料化とする方針を打ち出したと。こういった流れの中で、この展望1から4の中で、1から3の状況を少しグラフで資料を作っておりますので説明したいと思います。

ここで、参考資料、御確認をお願いしたいと思います。

このグラフは、昨年12月から本年11月までの1年間の転入・転出・出生・死亡者数を月平均に表したグラフです。転入87名、転出110名、里帰り分娩を含めた出生11名、亡くなられた方は44名となっております。亡くなられた方の中には、コロナウイルス感染症の罹患も含まれているのではないかと推察をしています。4月は、異動による転入318名、進学などによる転出545名で、転入数と比較しますと転出者数は235名で、転入者数を大きく上回ってい

ます。このことは例年同様の数値で推移していることではないでしょうか。

対馬市長期人口ビジョン、また、対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略をベースに取り組んでありますが、このような実態をどのように感じられているでしょうか。市長、お答えをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにこの表を見ましても、大変厳しい状況ではあるというふうには考えております。ただし、今、この計画をつくる段階で、社人研による人口推計では、2025年では2万4,876人でございました。これは総合戦略とか、何も実施をしないときには、ここまで減るんですよというようなことでございますが、これが総合戦略を実施しますと約2万6,700人まで抑制をするというような計画でございました。

今、2023年の段階で2万8,000人を若干切ったような段階でございますので、計画的には、このまち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、大体、今、予定は進んでいるのかなと思っております。ただし、また今後いかにこの転入を増やして、転出を減らすかということにも努力をしていかなければならないと考えておりますので、このことにつきましては、今現在、県のほうとも連携しまして、転出するときは、どのようなことで転出をされるのか、こちら辺をアンケートで集計をしまして、今後の施策に生かしてまいりたいという計画を持っております。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。確かに転出なされる方々には様々な諸事情がございましょうけれども、過去の例を言いますと、やはり仕事が業務に限られとることと、当然、進学等はやむを得ない状況下でございますけれども、進学後に、卒業後に、なるべく島にUターンすると、Iターンするというような組織づくり、チームづくりも必要かと思っております。このことにつきましては、いろんな努力はされていると思っております。本市のみならず、他の行政も同様の苦しみを味わっているんじゃないかと思っております。

国や県が進めている方針に沿って進めていることは、十分理解をしております。

対馬市独自の長期人口ビジョンに沿った合計特殊出生率は、2.18から2.42が目標で今されております。平成7年ですか。昨日の資料でしたか、令和4年の実績で合計特殊出生率は1.4じゃなかったですか。1.4と思っておりますけど。ちょっとこれ昨日の資料に探したんですけど、たしか1.4、随分乖離した数値じゃないかと思っております。先ほどグラフでも御説明しましたけれども、月平均で11名、これは里帰り分娩も入った数値ですけれども、非常に寂しい限りですね。従来ですと20名以上が大体、月平均出生されておりました。その中にも当然、里帰りで分娩された方、数値も入っておりましたけれども、少し勢いのある島であったのではないかなというふうに私も感じております。

合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの平均子ども数に相当するということと言われておりました。

国内の状況を見てみますと、国内では、合計特殊出生率は1.26で、前年の1.30より低下し、過去最低とのこと。国も非常に厳しい状況です。地方もそうです。都会も、東京、大阪、政令都市を除くとほとんどこういう状況やないかなと思っております。これはもう国の施策というよりも、それぞれ地域の施策の中で、こういった状況下に陥っているということは十分市長さんも御理解されておりますと思いますけれども。

それから、悲しいことですが、何回も言いますが、子どもの数が年々減少傾向にあるということは事実でございますので、このことを今後どうするかということが一番大事な政治施策の中で取り組むべき重点項目ではないかと思っております。3期目の一つの戦略の中にも、このことを十二分に入れられて、そして人口減少対策というよりも、子ども・子育て世帯の支援をどうするかと、これが一番じゃないかと思っております。これは当然Uターンも、いい施策をされれば、Uターンも可能性もありましょうし、当然、自宅を置いて島外に出てある方もいらっしゃるでしょうし、仕事がないと、こういったもろもろの今の状況下で島外に出らざるを得ないようなこともございますので、一つの施策として進めていただければなと思っております。

それから4点目につきましては、高齢者も今いろんな、先ほど少し紹介しましたけれども、グラウンドゴルフだとか、ゲートボールだとか、それぞれの定期的に勤しんである高齢者もいらっしゃるし、入院だとか、それから施設の入所だとか、やむなくなされている方、両極端ですけど、私たちもそれなりに日常の生活が継続してできるような高齢者になりたいなど、私も来年3月、70になります。70歳過ぎてどういう状況下で今後、生活できるのか。この島で私も先祖を守る立場でございますので、このまま島で生活することを考えております。

市長さんにつきましては、島で、そういった島づくりも大変でしょうけれども、生活しやすい環境づくり、これをひとつよろしくお願いをしたいと、特に子どもさんも含めてですね、高齢者も含めて、それから私たちみたいな地元の人たちの状況も踏まえて、しっかりと取り組んでいただければなと思っております。

1点目につきましては、以上でございます。

それから2点目でございます。

アンテナショップは、平成25年ですか、11月に博多駅前に開設をされて、今回、11月開催の大相撲九州場所の会場前に移転して3年目ということで、非常にアンテナショップとしては、ある程度、今後の継続も視野に入れた取組がなされているんじゃないかと思っております。

特に、11月開催の九州場所につきましては、若手の力士の台頭で大いに盛り上がりました。

私もテレビでくぎづけになったところでございます。特に九州場所につきましては、クエですか。対馬産のアラ鍋、アラも、非常に消費が高かったんじゃないかと思っております。福岡、福博の町は大いに盛り上がっておりました。非常によろしい、いいことでございます。

特に先月ですか、開設後の10周年の記念式典が開催をされておりました。私も報道で、新聞で確認をいたしております。移転先は市内ですので、博多駅前よりも当然、利便性から考えると若干低いのかなと思えますけれども、利用者数も増加傾向にあるという御報告がありました。

10年間で延べ22万人の方が来店をされた。特に九州場所の時点では、10月中は1日106名、それからイベント中、九州場所のイベント中は1日137名ということで、若干増えておりますけれども、それから客単価につきましては、約2,000円台ということでございますが、ちょっと確認ですけど、コロナ禍で客数の減少時があったと思います。コロナ禍、当然ですね、これはもうアンテナショップのみならずですよ、飲食事業も大変な状況やなかったかと思っております。

例えば、このコロナ禍で客数が減ったと、それから客単価も若干マイナス状況であったと、このことで、例えば売上げを伸ばす工夫、そのあたりを何かなされたかどうか、担当部長さんでもよろしゅうございますけれども、ちょっとそのあたりをお聞かせをお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにこのコロナ禍によりまして大変厳しい状況であったということは、私のほうも報告がっております。詳細につきましては、担当部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

コロナ禍によるお客様のなかなか厳しい状況から、改善をしていく取組でございますけれども、毎月のように対馬食材フェアということで、旬ごとの食材を使ったコース料理とか、そういうものを予約のコースとして毎月行っておりますし、特に今月12月ですけども、冬の食フェアということで、12月22日から24日まで、特別なコースを準備して予約をしていただけるように工夫をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。いろんな創意工夫をされているということにつきましては、十分理解をできます。10年たって、今後の10年間をどうするか、ここが一番重要なことじゃないかと思っております。特に福岡市内、そういった飲食業も大変に多うございますので、こういった特色を前面に出すかということでございます。

近隣は少し大型のいろんな施設もあるということで、特にこのコロナ禍で売上げが少し減少したということでありますと、例えばデリバリーとか、そのあたりの可能性はあったのか。それから、もし、今後、その計画としてあるのか、そのあたり少しお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

デリバリーということでございますけども、これまで特段は行ってはおりませんけども、今後ニーズがあれば、そのようなことも検討しなければいけないとは思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 率直な話、民間と比較しますと、なかなかやっぱり前面に出して進めるということは大変と思っております。しかし、アンテナショップとしての機能を発揮するためには、それら特色を生かして進めるべきやと思っておりますので、近隣の方々、特に福岡市内の方々が、その、対馬のアンテナショップとして認知度はどうなのかなど。認知度ですね。福岡対馬会ですか、年1回程度開かれておりますけれども、その方々も当然アンテナショップということは認知はなされていると思っておりますので、その一般の方々がですね、先ほど対馬の食材の販売も売店でなされているということでございますけれども、新鮮食材をいかに食卓に送り届けるか、こういった努力も必要かと思っておりますので、その中にフェアを月に1回程度なされているということでございますので、このあたりを継続的にして認知度を高めるということが非常に重要なことだと思っております。特にやっぱり今アンテナショップは他の五島も壱岐もないんですかね、対馬だけですかね。そして東京のほうには壱岐が出店なされているというふうに聞いておりますけれども、移転して、また新たなところに移転して3年目ということですので、徐々に認知度も上がって、それから新鮮な、そういった対馬独自の魚介類、これを提供しなければならぬと。一番、対馬の食材の中で一番、今、人気商品と申しますか、それについては何か、何がありますか、ちょっとお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） もちろん今の人気商品はやっぱりアナゴ関係だというふうには聞いております。それと今が旬のクエですか、そこら辺だということに聞いております。

それと今現在、「よりあい処つしま」、そして福岡事務所のほうと協力いたしまして、橋本というんですか、七隈の先のほうですね、あちらのほうでも月に1回程度、数回ですね、特産品販売を始めたというようなことを一応聞いております。これがまた軌道に乗ってくれば、もう少し、この認知度が上がっていくのかなというふうには思っております。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 人気商品、アナゴとクエということで、これ安定供給がいかにか
できるかと。そういったなりわいをなされている漁業者の方々も専門的にされているんじゃないか
と、漁業されているんじゃないかと思えます。これは地域商社、対馬の地域商社から提供してい
るんですか。漁業者単独やなくて。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） 食材、アナゴですか、アナゴにつきましては、おそらく
おっしゃられるように地域商社からの仕入れが多いとは思いますが、それだけに限らず、そ
のとき手に入るもの、手に入るところからという考え方でおります。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 何しろ生物ですから、当然しっかりとした提供をしなければ、一
旦マイナス要素になると、もうそれで終わりです。はっきり申しまして。いろいろ食材、取扱い
大変だと思いますけれども、今の所長さんとそれから観光物産協会の職員さんですか、主にいらっ
しゃるみたいですけど、福岡の土地で今後、対馬の名前をアピールできるようにしっかりと取組
をしていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時5分からとします。

午前10時48分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 皆様、こんにちは。私は、かつて企業誘致という言葉で一般質
問をしたことはございませんが、このたびは少しボリュームのある一般質問となります。

後に詳しく説明もいたしますが、ただいまから通告に従い市政一般質問を行います。

企業誘致について2点ほど、市長にお尋ねをいたします。

1つは、株式会社福岡魚市場が対馬比田勝港を中心とし、韓国との魚類の輸出入、いわゆる貿
易の構想をこれが浮上しております。

このことについては、去る11月9日、福岡魚市場社長、川端淳様が市役所を対馬市長を訪ね
ていると思われま。このことは承知しているところでありますが、市長はこのことについて、
どのようなことが話され、そして、どのような思いで、今後このことに対応しようと思うのか。